



平成 28 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 マミヤ・オーピー株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 聡
(コード:7991、東証第2部)
問合せ先 管理統括本部長 水谷 富士也
(TEL. 03-6273-7360)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 3 月期 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日) の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 28 年 3 月期 (通期) の個別業績値と前期実績値との差異 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 期 実 績 (A) (平成 27 年 3 月期)	百万円 13,799	百万円 1,239	百万円 1,270	百万円 619	円 銭 6.64
当 期 実 績 (B) (平成 28 年 3 月期)	百万円 10,318	百万円 1,179	百万円 1,165	百万円 786	円 銭 8.41
増 減 額 (B - A)	△3,481	△60	△105	167	
増 減 率 (%)	△25.2	△4.9	△8.3	27.0	

2. 差異が生じた理由

平成 28 年 3 月期の当社電子機器事業は、依然として遊技場事業者数等の減少並びに遊技関連市場の規模縮小が続く中で、射幸性の高い遊技機に対する自主規制の強化及び検定機と性能の異なるぱちんこ遊技機が存在すること (いわゆる「遊技くぎ問題」) に端を発する業界の先行き不透明感等を背景とした新規設備投資案件の大幅な減少に伴い、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の下で、平成 28 年 3 月期における通期の個別業績につきましては、電子部品の販売並びに伊勢志摩サミット開催に伴う遊技機の入替自粛を視野に入れた、パチンコホールの新規設備投資前倒しによって、ゴールデンウィーク商戦が期中に繰り上がったことを支えとして巻き返しを図ったものの、第 3 四半期までの売上減少を補うまでには至らず、前期実績と比較し大幅な減収を余儀なくされました。

なお、利益面につきましては、引き続き取り組んでまいりました製造原価低減等によるコスト削減並びに低採算取引の見直し等の効果もあり、売上高の減少に伴う若干の減益はあるものの、概ね堅調な実績となりました。

以 上